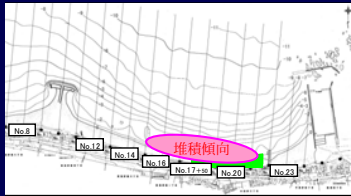
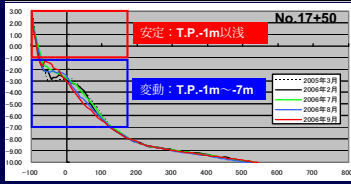
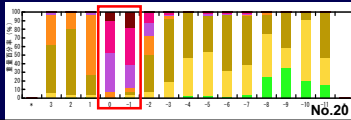




### 3. 試験養浜

#### 3-6 まとめ

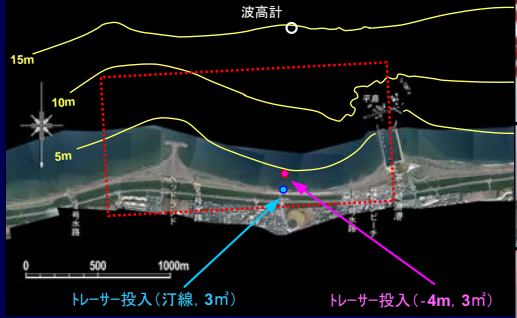
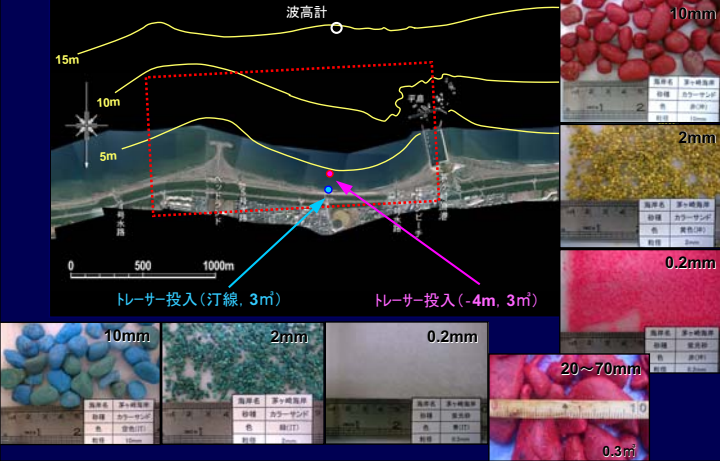
- 陸上部では、盛土養浜が多少削られてはいるものの、砂浜幅はほぼ一定である。盛土部分では砂の供給を行うことから削られるのは当然である。
- 養浜後～7月にかけて、No.15～No.21.5の前浜から水深約4mの区間において堆積傾向であった。これに対し水深4mより沖合では大きな変動はなく、投入砂礫は汀線付近に集中的に堆積した。
- 7月、8月の高波浪（年数回程度）後、水深1～7mにおいて多少の地形変動はあったが、前浜から水深1m以浅の汀線付近はほとんど変化せず安定を保った。
- 8月末時点での養浜箇所の底質は、試験養浜前の昨年10月に比べ、汀線付近を多くの礫が占めることで特徴付けられる。また、ヘッドランド近傍のNo.14においても汀線付近に礫が集積した。
- 以上のことから、礫を多く含む投入土砂は水深約4m以浅に留まり、沿岸方向に緩やかに拡散したと考えられる。投入土砂の粒径を

### 4. 漂砂調査

#### 4-1 漂砂調査の内容

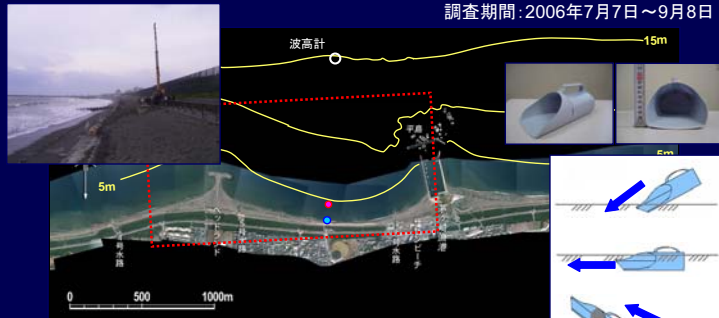
Q: どのくらいの粒径が汀線安定に寄与するのか? 粒径別の砂の動きは?

### 4. 漂砂調査

#### 4-1 漂砂調査の内容


調査期間: 2006年7月7日～9月8日



7/7波高計設置・トレーサー投入

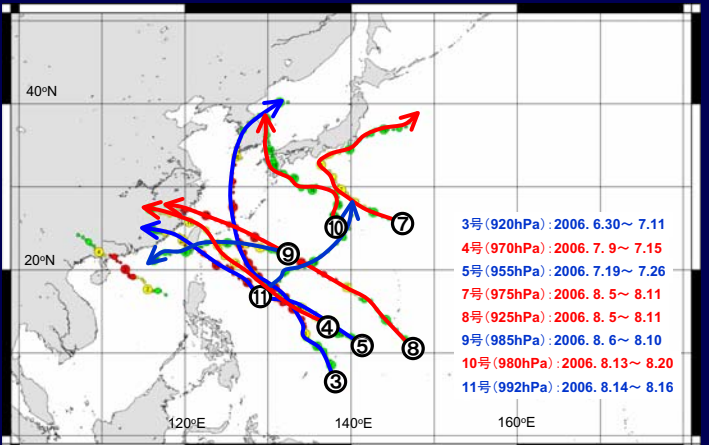
7/10採取①, 7/14採取②, 7/20採取③

8/22採取④, 9/8波高計回収採取⑤



### 4. 漂砂調査

#### 4-2 期間中の波浪状況①



- 3号 (920hPa): 2006. 6.30～7.11
- 4号 (970hPa): 2006. 7. 9～7.15
- 5号 (955hPa): 2006. 7.19～7.26
- 7号 (975hPa): 2006. 8. 5～8.11
- 8号 (925hPa): 2006. 8. 5～8.11
- 9号 (985hPa): 2006. 8. 6～8.10
- 10号 (980hPa): 2006. 8.13～8.20
- 11号 (992hPa): 2006. 8.14～8.16

出典: 北本 朝展 研究室 @ 国立情報学研究所(NII)

